



## 送迎の実態と事務の状況を 把握するための調査

福祉有償運送の実態に係る実地調査

十月十五日（火）午前九時三十分から、『福祉有償運送の実態に係る実地調査』が八幡事業所で行なわれました。北九州市の福祉有償運送を担当する、保健福祉局地域支援部地域福祉推進課より、齋藤渉係長と十月から新任の森永みずほ主任が来所されました。

### 事故や苦情の有無や

#### 対応などを確認

この実態調査は、毎年この時期に行なわれており、行政と北九州市福祉有償運送運営協議会が各事業所の送迎の実態を把握するための調査です。

今年も八幡事業所で行なわれました。

調査内容は毎回同じなのですが、「活動報告書及び車両点検表」の確認や、点呼の方法、事故や苦情の有無や対応、送迎時の車にステッカーを貼っているかを確認していただきました。



北九州市保健福祉局地域支援部地域福祉推進課  
齋藤 渉係長と森永 みずほ主任

次に運転者名簿、自動車登録簿、利用者名簿や利用者の障害者手帳の写しがありました。

#### 書類などは施設できる

また、個人情報保護の保護に  
関して、書類などは施設でき  
る書棚に保管していただきま  
した。

最後に齋藤係長は、「さわ  
やか」や、ほかの幾つかの  
事業所は自家用有償旅客運  
送の更新登録の申請が来年  
三月末にあるので、二月開  
催の運営協議会までに書類

今回の台風十九号によりお亡くなりになられた方々のご遺族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。

また、被災されました皆様にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧と復興を、皆様が平穏な日常生活に戻ることができるよう、お祈り申し上げます。

令和元年一〇月

事務局一同

## 大規模な風水害を想定した防災訓練

令和元年度 門司区総合防災訓練開催

十月五日（土）に北九州市の門司区役所総務企画課主催で『令和元年度門司区総合防災訓練』と題して大規模な風水害を想定した防災訓練が北九州市立萩ヶ丘小学校で行われました。今回は、萩ヶ丘校区の住民や自衛隊、消防、警察など約二五〇名が参加しました。また、北九州市障害福祉協議会（障団連）から、障害当事者やその家族など約二〇名が参加し、「さわやか」からは山田と貞谷が参加しました。

この総合防災訓練は、住民の防災意識や関係機関の連携を強化することを目的に市内各区で毎年、実施されています。

門司区では今回初めて、住民の『自助』と『共助』をテーマに大雨で土砂災害が発生したという想定で実施されました。

#### 参加で経験や訓練になる

また、この総合防災訓練への事前に行なわれた打ち合わせでは、消防団や警察の方たちから「障害をお持ち

の準備を行なってもらうように協力をお願いしますと終了しました。



身体障害者の方には一人ずつ消防団員や警察官に付き添ってもらい、避難行動要支援者は避難所を想定した萩ヶ丘市民センターから小学校の体育館まで歩きました。

午前九時から第二部の『避難シミュレーション訓練』が行なわれました。

#### 『自助』、『共助』に着目した

#### 防災講話などを実施

この訓練は、平成三〇年七月豪雨における門司区での災害や被害等を教訓に、『自助』、『共助』に着目した防災講話や地域住民の方々にも参加できるグループワーク、初めての取り組みとなる簡易的なシミュレーション訓練等を実施しました。

初めに、北九州市消防局門司消防署の岡本拓司署長より「今回の消防訓練が住民の皆様役に立つものになれば良いと思います」と話されました。

（裏面へつづく）



住民避難訓練の様子



訓練には、萩ヶ丘校区の五つの町内会が参加し、それ以外の町内会については、参加住民が各自で、午前九時までに会場の萩ヶ丘小学校の体育館に到着しました。この時、近所の高齢者や



# 多くの町内の皆さんに呼びかけよう

## 避難シミュレーション訓練実施

(表面よりつづき)

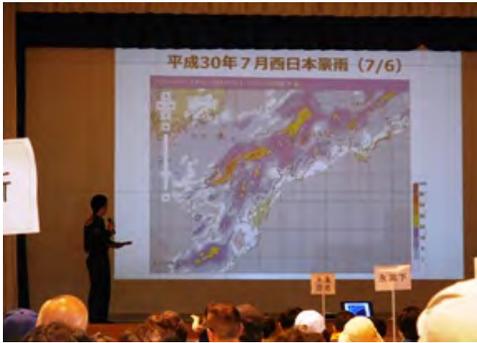
続いて、北九州市消防局門司消防署警防課の入門真生(いりかどまさお)消防司令補が「災害には地震や火事などいろいろあります。が、今回は大雨災害についてお話しします。」

### 災害が起きた後でも

#### 助かる命が限られる

私たち消防署員は災害が起こってからしか活躍の場がありませんが、命を守るということに関しては災害が起きた後でも助かる命が限られてきます。

災害が起きる前に皆さんがそれぞれ大雨災害から避難して命を守っていただく



北九州市消防局門司消防署警防課  
入門 真生消防司令補

しかありません。

避難指示が発令されても住民の中には動かない、動けない人がいてどうしても命は守れないので、住民同士が助け合うことが大切です」と話されました。

また、体育館に集まった住民たちは、町内ごとに分かれて避難指示が出ると声を掛け合いながら、移動するなどの訓練を行いました。

また、避難勧告を住民同士で出来るだけ早く伝言する訓練も行いました。

最後に、入門消防司令補

## 土砂災害により埋もれた車両からの

### 要救助者の救助及び救出訓練

その後、グラウンドに移動し、午前十一時から第三部の『関係機関連携訓練』が始まりました。

この訓練は、防災関連機関の連携強化を目的に、関係機関による救助や救出訓練で、九団体(下記参照)、約五〇人、車両約十台等の関係機関の参加があり、土砂災害により埋もれた車両からの要救助者の救助及び



避難シミュレーション訓練の様子

は「今回の訓練で、防災の取り組みが達成するものではありません。」

災害当日、多くの町内の皆さんに呼びかけをしましょう」と話され、避難シミュレーション訓練は終了しました。

救出するという想定で実施されました。

初めに、

福岡県議会議員及び北九州市議会議員の紹介があり、訓練に入りました。

### 関係団体紹介

- 1) 陸上自衛隊 小倉駐屯地 第40普通科連帯
- 2) 福岡県警 門司警察署
- 3) 北九州市消防局 門司消防署
- 4) 北九州市消防局 門司消防団
- 5) 門司区市民防災会連合会 門司区自治総連合会
- 6) (社福) 北九州市社会福祉協議会 門司区事務所
- 7) 門司区緊急業者(有) 平田建設工業
- 8) 北九州市門司区役所
- 9) 北九州市障害福祉団体連絡協議会

崖崩れの報告を受けた区の対策本部は、消防署への救助対応依頼及び緊急業者への手配をし、消防隊が到着するまでの間に、警察署

崖崩れの報告を受けた区の対策本部は、消防署への救助対応依頼及び緊急業者への手配をし、消防隊が到着するまでの間に、警察署

崖崩れの報告を受けた区の対策本部は、消防署への救助対応依頼及び緊急業者への手配をし、消防隊が到着するまでの間に、警察署

崖崩れの報告を受けた区の対策本部は、消防署への救助対応依頼及び緊急業者への手配をし、消防隊が到着するまでの間に、警察署

崖崩れの報告を受けた区の対策本部は、消防署への救助対応依頼及び緊急業者への手配をし、消防隊が到着するまでの間に、警察署

より危険なエリアに対して、警戒区域の設定が行なわれました。

また、倒木と土砂が道路を塞ぎ、埋没車両へ近づけないため、消防団が所有するチェーンソーを使用して緊急路を確保し、消防隊が現場に到着後、消防団と連携し、消防団は高洲副団長の下、スコップを使って土砂を取り除きました。

また、消防隊はパワーツールを使い、車からの救助を行いました。



ここで、現場の消防隊より区の対策本部へ被害の規模が大きく他にも要救助者が数名いると報告があり、様々な情報収集の結果、人命救助及び応急処置などの観点から、自衛隊の『災害派遣要請』が必要と判断し、自衛隊が出動し、大雨に伴う土砂崩れに巻き込まれ、車内に取り残された住民の救出等の訓練を実施しました。訓練終了後、上田伸一門司区長より講評があり、午前十一時四十分門司区総合防災訓練は終了しました。